

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

I 法人の概要（令和7年4月1日現在）

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

2 設立年月日

昭和51年3月25日

3 代表者

理事長 津田 純嗣

4 基本財産

1,945,379千円（設立時の基本財産 2,416,798千円）

5 北九州市の出捐金

1,650,000千円（出捐の割合 68.3%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11 人	0 人	1 人	10 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	10 人	0 人	0 人	10 人
職 員	62 人	4 人	1 人	57 人

7 団体のミッション

○内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興、北九州市における観光事業の健全な振興に資するとともに、コンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

○北九州観光コンベンション協会がこれまで培ったネットワークやノウハウを未来に確実に引継ぎ、さらに発展させる（ネットワークやノウハウは再構築が困難）。

○それらのポテンシャルを十分に発揮できる体制を整備し、北九州市と共同して、宿泊や市内消費など経済活性化に寄与する「MICE誘致・開催支援事業」「展示会・イベント開催事業」「観光事業」をさらに推進する。

Ⅱ 令和 6 年度事業実績

【概況】

MICE分野では、毎年恒例の自主事業の実施やコンベンションなどの誘致・開催、貸館営業のほか、夏季のにぎわいイベントの実施などに積極的に取り組んできた。令和 6 年度はライブ・エンターテインメント、国際会議等の増加によりコロナ禍前の水準を安定的に回復し、会議・大会等は延べ 275 件開催され、施設来場者数も 103 万人を集めた。

観光分野では、観光客誘致・滞在化促進のため、国内外へのセールスの実施や、情報発信、観光に関する施設の管理・運営に取り組んだ。売店事業ではインバウンドや団体観光客等の回復により収益が改善し、TOTOMミュージアムショップにおいては過去最高の収益となった。また、11 月より新たに立ち上げた旅行事業については、体験型のツアー商品造成・販売を開始した。

経営面においては、協会全体が一丸となり事業に取り組んだ結果、過去最高収益となった令和 5 年度には及ばないものの、収益黒字を確保することができた。今後も、新たな事業展開に向けた準備や、コスト管理を徹底し、自立した経営を維持・強化しなければならない。

見本市・展示会事業

1 主催展示会の開催

(1) 概要

◆当協会主催の展示会・見本市事業

事業名		開催期日	入場者数（人）		出展社数（件）	
				(R5実績)		(R4実績)
課題解決 EXPO 2024	西日本製造技術イノベーション 2024	7/3-5	17,224	18,183	48	41
	西日本 DX 推進フェア 2024				56	51
	エコテクノ 2024				65	72
	～地球環境ソリューション展/エネルギー先端技術展～					
	ベンチャー・メッセ 2024				13	20
	中小企業テクノフェア in 九州 2024				54	53
	第 50 回ふくおか産業技術振興展				24	27
第 46 回西日本陶磁器フェスタ		9/14-19	49,118	45,165	235	228
合 計			66,342	63,348	495	492

ア 複雑化する地域企業の課題解決に対応する「課題解決 EXPO」の開催継続

製造業・DX推進・環境産業・中小企業をテーマとした展示会を一堂に集め、地域企業の課題を解決に導く「課題解決 EXPO」を引き続き開催した。会場では、生産性向上、デジタルトランスフォーメーション（DX）の導入、脱炭素への取組みなど、様々なテーマについて展示とセミナーによる情報発信を実施した。また展示会とあわせてビジネスマッチングや商談会を行うことで、相乗効果による取引の拡大を図った。

イ 西日本陶磁器フェスタの魅力向上と安心・安全への取り組み

当フェスタは、全国でも最も伝統ある陶磁器展示会の一つである。芸術（西日本陶芸作家展）・文化（生け花&茶道と器）の視点での様々な企画を展開し、伝統工芸を担う窯元等への市場の提供や地域経済の活性化を目的に開催した。令和6年度も引き続き、SNSを活用したPRや集客を行った。具体的には、ホームページ活用による出展窯元の紹介や作品PRの拡充・強化、SNS情報発信等により各窯元の満足度向上に努めた。また、引き続き台風リスクに備え5日間の会期を6日間に延長して開催した。

ウ その他事業

◆当協会主催のその他事業

事業名	開催期日	入場者数
泡盛ナイト in こくら	R6年7月30日	136人（191人）
第29回北九州将棋フェスティバル	R6年10月5日～6日	739人（691人）
手づくり市場 in 北九州 2024	R6年11月9日～10日	10,619人（11,720人）
第24回全国俳句大会 in 北九州	R7年2月28日～3月1日	1,106人（1,112人）

※（ ）内は令和5年度実績

(2) 国際ビジネスの推進

海外企業との取引促進や国際競争力の強化を目的に、北部九州とアジア地域の企業を結ぶ新たな交流の場や情報発信の場とすべく下記のとおり取り組んだ。

ア 韓国釜山広域市国際展示場BEXCOとの連携

既にMOUを締結しているBEXCOとの連携事業では、コロナ禍による交流の中断と双方の事業実施環境の変化に伴う新たな交流の再開に向け韓国を訪問し、メニューの作成に向けた協議を実施した。また、仁川広域市の松島Convensiaとは双方の概要等の情報交換を再度行い途絶えていた交流を再開した。今後も相互に訪問し合い、新たな連携に向けて交流を継続する。

イ アジア地域の経済・貿易関係団体等の出展による情報発信の推進

課題解決EXPO内に海外経済団体や貿易促進団体等による出展を得て、出展社・来場者へ海外取引や投資の促進など最新情報の提供を実施した。

事業名	関係団体名
課題解決EXPO	・北九州貿易・投資ワンストップサービスセンター （北九州市産業経済局（国際ビジネス戦略課）、ジェトロ北九州、 （公社）北九州貿易協会） ・KOTRA韓国貿易センター（福岡） ・台湾貿易センター福岡事務所

ウ 九州山口中小企業の国際競争力強化事業の取り組み

欧州等での国際的なサプライチェーン内における炭素税導入や、脱炭素への取り組みが取引において必須となりつつある現状を、国際的な最新動向や今後の見通し、国内企業における使用エネルギー削減への取り組みを紹介し、地域企業の脱炭素化への取り組みの促進を図った。本事業は、貿易・産業協力振興財団の助成金を活用して実施した。

◆ 海外企業出展社

主催事業名	企業出展内容	関係国・機関等
エコテクノ	1社・団体	台湾

会議・大会等

2 MICE誘致

(1) 概要

前年度に引き続き、キーパーソン・学協会等への営業活動、各種商談会への参加を積極的に行ったほか、JNTOとも連携し情報発信の強化を図った。さらに、営業活動や商談会を対面や現地開催することで、キーパーソンと直接面談することにより効果的な営業活動を行うことができた。また、誘致の都市間競争が激化している状況を受け、会議情報の早期入手と主催者ニーズの的確な把握に努め、誘致活動を行った。

◆MICE開催件数・参加人数の推移

(単位：件)

区分	国際		全国		その他		合計	
	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数
R6年度	87	37,959	100	49,409	88	41,212	275	128,580
R5年度	45	29,996	101	57,589	103	60,579	249	148,164

(2) 誘致営業活動

ア キーパーソン・学協会・PCOへの営業活動

原則、訪問による営業活動を行った。また、首都圏に在住するキーパーソン、有力な学協会関係者とのネットワーク維持と拡大を図るため、「北九州MICE倶楽部首都圏交流会」を開催した。

【北九州MICE倶楽部首都圏交流会】

- ・開催日 令和7年1月23日
- ・会場 ホテル雅叙園東京
- ・参加者数 北九州市側 34名(10大学、8学会・3研究機関、8団体)
下関市側 17名(4大学、6学会・2研究機関、1団体)

※下関市観光コンベンション協会と共催

イ 各種商談会への参加

JNTO等が主催する各種商談会に参加し、国際及び国内会議・インセンティブツアーの新規案件の開拓を行った。

【第34回国際MICEエキスポ(IME)】(JNTO・JCCBが主催する国内最大の商談会)

- ・令和7年2月13日、東京国際フォーラム 商談件数10件

【JNTOインセンティブ商談会】

- ・韓国：令和6年8月28日、ホテルプレジデント(ソウル) 商談件数8件
- ・タイ：令和6年12月12日、カールトンホテル(バンコク)、商談件数8件
- ・マレーシア：令和7年2月10日、ベルジャタイムズスクエアホテル(クアラルンプール)、商談件数8件

【VISIT JAPAN トラベル&MICEマート 2024】

令和 6 年 9 月 26 日～28 日、東京ビッグサイト 商談件数 30 件

ウ グローバルレベルでの誘致強化

ICCA (International Congress and Convention Association) 国際会議協会 (マレーシアクアラルンプール) を訪問し、国際会議の最新動向情報の収集を行った。

また、ICCA データバンクを活用して会議誘致を推進した。併せて ICCA に国際会議の照会を行うとともに、誘致した国際会議の新たな認定申請を行い、認定を受け、令和 6 年 11 月 9 日には、IEEE、EDS マレーシア支部学会、プトラ大学を訪問し、誘致活動を行った。

エ スポーツ大会の誘致

北九州市の魅力を全国に発信するとともに、「スポーツによるまちのにぎわいづくり」や「スポーツの振興」を図り本市の活性化に寄与することを目的に、スポーツ大会の誘致にも取り組んだ。その結果、令和 6 年度は 39 件、延参加人数 34,702 人のスポーツイベントを北九州市に誘致することができた。今後も引き続き各種スポーツ団体への誘致活動を行っていく。

(3) 北九州市グローバルMICE推進協議会との連携

令和 6 年度は、「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート 2024」及び「国際MICEエキスポ (IME)」に協議会と共同出展した。また、毎年、北九州観光コンベンション協会と下関観光コンベンション協会が主催する「北九州MICE倶楽部首都圏交流会」に参加し、首都圏在住の国際会議等のキーパーソンとの交流を行っている。

(4) 観光庁公募事業の採択支援

国際会議誘致開催を促進する観光庁公募事業に、支援する国際会議主催者と連携し、採択された。

(5) 大学との連携協定の推進

連携協定先の大学を定期訪問し、誘致活動とともに確定案件の手続きなどの伴走を行った。

貸館利用者の誘致・営業強化

3 貸館利用者への営業実績

(1) 営業体制の強化

潜在顧客の掘り起こし、リピーターの利用再開を目的とした積極的な営業を推進するとともに、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、更なるサービスの向上に努めるために以下のような取組みを実施した。

ア 新規利用者の開拓

従来型の見本市、B to B イベントをターゲットにした新規案件の開拓や、全国を巡回する大型イベント主催者への営業を強化した結果、令和 6 年度は 45 件の新規営業案件を誘致した。

イ コロナ禍で開催を中止した案件への継続営業

コロナ禍で中止となっていた催事が 2019 年以来 5 年ぶりに再開。継続営業の成果として、令和 6 年度は 10 件の復活営業案件を誘致した。

(2) 「営業推進本部」の機能強化

施設の管理・運営及び営業によって施設の設置目的に沿った効果を最大限に発揮するとともに、指定管理者としてにぎわいづくりを戦略的に実施するため、「営業推進本部」として営業課とサービス課がワンチームとなり、更なる機能強化を図った。

具体的な内容としては、毎月１回「営業推進本部会議」を開き、主に施設の稼働状況や改修状況、顧客の動向について情報共有を図り、会場の利用促進・サービス向上に努めた。

ア 「集客にぎわいイベント」への取り組み

６年ぶりとなる「ブラレール博 in KITAKYUSHU」（本館大展示場）を開催。会場内の混雑解消を目的に入場の日時指定制を導入したが、多くの家族連れの来場があり盛況となった。また、顧客満足度も大幅にアップした。

イ 北九州市との連携強化

令和６年５月、北九州市ＭＩＣＥ・エンターテインメント課、当協会を含む５団体で、大型コンサートの誘致を目的とした「北九州市コンサート誘致コンソーシアム」を設立した。

ウ 国際スポーツ大会等誘致に向けた連携強化

北九州市・国際スポーツ大会推進室と連携を強化し、将来に向けた更なる案件獲得への情報収集を継続的に行い、令和６年６月の「ネーションズリーグ２０２４」の誘致に成功した。

◆貸館営業の成果件数実績

年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
成果件数	219 件	288 件	301 件

4 地域連携

J R小倉駅新幹線口の各団体と交流イベントや地域清掃活動等を実施した。また、小倉駅へのアクセスの良さを生かし、イベント等のPRをJ R九州・J R西日本と連携して行うなど、地域の活性化に取り組んだ。さらに、１月に発生した能登半島地震について、災害義援金を募り、日本赤十字社への寄付を行った。

5 広報、宣伝

(1) 機関誌・観光関連書籍の発行

北九州観光イベントだより（４０，０００部）、北九州観光カレンダー（６，５００部）

(2) 「磯崎 新 建築アーカイヴ(文化庁 Innovate MUSEUM 事業)」への協力

磯崎新設計の建築物を美しい形で後世に残すための北九州市立美術館の取組「磯崎新建築アーカイヴ」に協力を行い、西日本総合展示場本館および北九州国際会議場の文化的価値のPRに協力した。（文化庁令和６年度 Innovate MUSEUM 事業）

(3) ホームページ等の運営

◆令和６年度 市内観光情報の発信実績

発信元	対象	件数	
			(R5 実績)
ぐるリッチ！北Q州	アクセス数	1,377,406件	1,465,996 件
F a c e b o o k	いいね！件数	13,137件	12,842 件
I n s t a g r a m	フォロワー数	23,440件	20,108 件
X (旧 T w i t t e r)	フォロワー数	21,010件	21,097 件

管理・運営

6 MICE施設の管理・運営

(1) 職員の資質・能力の向上

職員研修として、ハラスメントを発生させない職場環境を整えるための「ハラスメント防止研修」を行った。また、MICE施設の全国組織である「国際会議場施設協議会」「全国展示場連絡協議会」の担当者実務研修にも積極的に参加し、他施設との情報交換を行い、スキルアップに繋がる情報収集に取り組んだ。さらに、「Japan MICE EXPO2024」や「国際MICEエキスポIME2025」に参加し、MICE誘致に関する利用者ニーズの把握や交渉の進め方を現認訓練することで、当協会の営業課や誘致部はもちろん、PCOやホテル、旅行社との連携強化を図る能力向上教育を行った。

(2) 管理業務の効率化と環境保全

人件費の上昇や光熱費、主要資材の高騰等、幅広い分野で費用が増大しているため、契約電力や人員の配置などの見直しを行い、コストダウンに努めた。また、消費電力の削減を目的に本館管理棟などLEDを積極導入し、省エネルギー対策を講じた。あわせて、学会等の打ち合わせにオンラインを活用し、費用と時間の節約など業務の効率化を図った。

(3) 施設の改修等

各施設とも老朽化が進んでおり、電気設備、空調設備、水回り等の不具合は利便性の低下を招くため、最優先で修繕を行った。また通常利用に支障をきたしつつある空調設備やエレベータは早急に対処すべき改修として市に予算要求し、令和7年度予算で更新する運びとなった。

(4) 各施設の稼働率及び入場者数

◆令和6年度 利用実績

施設	(件)		(日)		(%)		(万人)	
	件数	(R5実績)	稼働日数	(R5実績)	稼働率	(R5実績)	入場者数	(R5実績)
西日本総合展示場本館	78	68	253	202	73.5	62.7	34	32
西日本総合展示場新館	149	179	281	288	80.5	81.4	61	65
北九州国際会議場	546	576	332	328	96.0	95.4	8	8

7 指定管理

令和6年度は、指定管理計画に掲げた目標値をいずれも達成した。

◆令和6年度 指定管理実績

区分	目標値	実績値
来場者数	96 万人	103 万人
コンベンション誘致件数	250 件	256 件
施設稼働率	本 館： 70.0%	本 館： 73.5%
	新 館： 80.0%	新 館： 80.5%
	会議場： 90.0%	会議場： 96.0%

観光客の誘致及び滞在化の促進

8 観光客誘致及び滞在化促進

(1) 誘致活動・展示会等出展

国内旅行会社への誘致活動（45 社訪問、12 社との商談）、「女子旅 EXP02024」等への出展

(2) 産業観光促進事業

産業観光ホームページ及び Facebook の管理・更新、産業観光等の P R を行った。

産業観光ホームページ（R6.4.1～R7.3.31）

項 目	当年度	前年度
アクセス数	57,997	56,770
ページビュー	112,393	136,742
内訳)		
トップページ	21,868	9,537
工場見学	7,745	7,633
工場夜景	4,182	5,139
産業遺産	1,221	1,323

Facebook：フォロワー：313 名（前年度 311 名）、投稿数：3 件（前年度 5 件）

(3) インバウンド誘致事業

ア インバウンド団体客誘致（10/21）

国内ランドオペレーターと交渉し、台湾インセンティブツアーを北九州市に誘致、台湾企業の社員旅行 500 名が小倉城を観光。

イ 台湾エージェントセールス（10/29～30）

訪問先：台北市内 12 社、参加者：市内観光事業者 4 社 6 名

ウ 2024 台北国際旅行博（ITF）への出展（11/1～4）

参加者：111 ヶ国・地域（うち日本からの参加者 92 団体）

来場者数：364,563 人（うち、ブース来場者 2,300 名）

エ 福岡商工会議所観光マッチング商談会（1/15）

参加者：国内旅行会社・ランドオペレーター 14 社、海外旅行会社 5 社

オ 台湾インフルエンサー招聘事業（8/26～28）

台湾のインフルエンサーを招聘し SNS 等において本市の観光 P R を行った。

場所：旦過市場、小倉城、小倉城庭園、若松南海岸、市内飲食店等

P R 媒体：日本の観光情報紹介サイト「酒雄瘋日本」

Facebook「酒雄瘋日本」（フォロワー 4.6 万人）

カ 誘致助成金事業（4/1～3/31）

台湾から本市への訪日団体観光客を取扱う旅行会社に対し助成を行うことで、本市旅行商品造成、販売促進及び観光客増加を図った。

助成額：【基本要件】市内宿泊：2,000 円/人（市内昼食・夕食：+1,000 円/人加算）

実績：1,200 名

キ 外国人旅行者の受入環境および消費向上アドバイス事業（4/1～3/31）

市内飲食店・販売店当事業社のインバウンド受入環境を整備することでインバウンドへの取組み促進及び消費の拡大を図った。

事業社：市内飲食店・販売店等 11 社

観光に関する人材の育成及び啓発

9 観光人材の育成

(1) 百万にここにホスピタリティ運動（観光業務従事者研修会、12/11）

参加者：講演会 54 名、意見交換会 38 名、意見交換会商談成立件数（見込み含む）：2 件

(2) 観光案内ボランティア制度運営

旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等での観光案内や、イベント、祭りに合わせて設置した特設観光案内所でのボランティアガイド活動を実施した。

・令和 6 年度観光案内ガイド件数・人数・活動者数：1,055 件、15,441 名、1,572 名

・イベント、祭りでのガイド件数、案内人数：89 件、151 名

(3) 北九州観光市民大学

本市の観光や歴史、文化等の学びを目的に、北九州観光市民大学を開講した。令和 6 年度は 30 名の参加があり、そのうち、12 名が新たに観光案内ボランティアに登録した。

特産品の紹介・宣伝

10 特産品の紹介・宣伝

キャッシュレス化を促進し臨時売店の出店を行った。大規模イベントでは事前に土産品チラシを配布し受注する形態とし、地場産品の有効な PR と収支の安定を図った。

加えて、誘致部や宿泊泊施設と連携し、様々な団体へ「北九州土産品セット」の提案、スイーツセッション用茶菓子を販売するなど新規顧客の創出を図った。

また、土産品に特化した Instagram の立ち上げや、賛助会員と「MARQERS オリジナル商品」を製作販売するなど地元産品の PR に努め、通信販売では「北九州ギフトセット」を継続展開し大口顧客の獲得に努めた。

観光に関する施設の管理運営

11 観光施設の管理・運営

(1) 観光案内所

北九州市、JR 九州、西鉄バス北九州、北九州エアターミナルと北九州市観光案内所運営協議会を組織し、官民一体となり観光案内所におけるサービス強化を図った。

令和 6 年度は装飾等による案内所の観光スポット化や SNS 発信を行い、北九州市の「ファン・リピーター」を増やす取組みを行った。

<来所者数>

・北九州市総合観光案内所：83,354 人（前年実績：98,001 人）

・門司港駅観光案内所：43,612 人（前年実績：22,622 人）

・北九州空港総合観光案内所：15,961 人（前年実績：16,410 人）

・北九州市観光案内カウンター：8,211 人（前年実績：3,921 人）

(2) 土産品・特産品売店

門司港レトロ地区における主力観光物産店である「北九州おみやげ館」や、小倉北区の「OTTO ミュージアムショップ」を管理運営し土産品の紹介・販売を行った。また、北九州商工

会議所が地域消費喚起策として発行した「P a y c h a」、北九州市国際観光推進協議会がインバウンド向けに発行した「ウェルカム北九州!」、北九州で開催されるイベント参加者優待企画「おもてなしキャンペーン」等への参画や「夜景商品コーナー」、「ご当地ガチャ」の設置等地域施策等と連携した店舗P R・販促に努めた。

(3) J R小倉駅J A M広場、J A Mビジョン

J R小倉駅 3 階在来線改札口前のJ A M広場において、北九州市関連の催事をはじめ、北九州圏域の観光物産展やにぎわいづくりのイベント誘致に取り組んだ。また、同広場の大型映像装置「J A Mビジョン」において、市政情報や観光情報、広告に関するC M等を放映した。

Ⅲ 令和6年度決算

令和7年3月31日現在

1 貸借対照表(総括表)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,007,792,945	1,076,237,402	△ 68,444,457
売掛金	9,540,543	10,963,428	△ 1,422,885
未収金	67,624,989	48,814,172	18,810,817
棚卸資産	7,623,194	6,084,088	1,539,106
貯蔵品	1,254,480	448,880	805,600
前払金	874,833	820,818	54,015
立替金	39,500	241,252	△ 201,752
仮払金	15,767,477	6,864,364	8,903,113
流動資産合計	1,110,517,961	1,150,474,404	△ 39,956,443
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	196,500,648	232,962,848	△ 36,462,200
建物付属設備	326,793	1	326,792
構築物	4	4	0
機械及び装置	9,559,087	11,310,599	△ 1,751,512
基本財産引当資産	761,421,301	761,421,301	0
減価償却引当資産	977,571,610	977,177,339	394,271
基本財産合計	1,945,379,443	1,982,872,092	△ 37,492,649
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	181,770,153	175,896,790	5,873,363
減価償却引当資産	1,824,312	3,368,822	△ 1,544,510
目的事業引当資産	625,112,525	625,112,525	0
事業留保引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震等改修工事引当資産	192,000,000	192,000,000	0
施設耐震等修繕費用準備金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
施設大規模修繕・改修費用準備資産	30,000,000	0	30,000,000
システム改修費用準備資産	34,572,500	0	34,572,500
特定資産合計	1,147,929,490	1,079,028,137	68,901,353
(3) その他固定資産			
建物	2,766,081	2,973,599	△ 207,518
建物付属設備	177,626	245,419	△ 67,793
構築物	873,643	1,213,715	△ 340,072
車両運搬具	1,133,919	277,045	856,874
什器備品	2,292,768	2,560,084	△ 267,316
機械及び装置	2,340,989	3,200,034	△ 859,045
ソフトウェア	24,554,842	20,932,997	3,621,845
リース資産	34,487,166	43,483,818	△ 8,996,652
保証金	232,500	0	232,500
繰延税金資産(長期)	7,220,000	8,500,000	△ 1,280,000
その他固定資産合計	76,079,534	83,386,711	△ 7,307,177
固定資産合計	3,169,388,467	3,145,286,940	24,101,527
資産合計	4,279,906,428	4,295,761,344	△ 15,854,916
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	7,693,867	7,173,207	520,660
未払金	98,143,539	150,221,617	△ 52,078,078
前受金	34,898,629	45,583,176	△ 10,684,547
預り金	31,833,695	40,392,313	△ 8,558,618
仮受金	1,090,040	2,118,470	△ 1,028,430
未払法人税等	22,489,100	44,838,600	△ 22,349,500
賞与引当金	16,877,881	14,922,048	1,955,833
流動負債合計	213,026,751	305,249,431	△ 92,222,680
2. 固定負債			
退職給付引当金	181,770,153	175,896,790	5,873,363
リース債務	34,487,166	43,483,818	△ 8,996,652
預かり敷金	600,000	600,000	0
固定負債合計	216,857,319	219,980,608	△ 3,123,289
負債合計	429,884,070	525,230,039	△ 95,345,969
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	756,000,000	756,000,000	0
興小場設備受贈益	208,691,280	231,931,410	△ 23,240,130
基本財産運用益	5,421,301	5,421,301	0
指定正味財産合計	970,112,581	993,352,711	△ 23,240,130
(うち基本財産への充当額)	(970,112,581)	(993,352,711)	(△ 23,240,130)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	2,879,909,777	2,777,178,594	102,731,183
(うち特定資産への充当額)	(975,266,862)	(989,519,381)	(△ 14,252,519)
(うち特定資産への充当額)	(966,159,337)	(903,131,347)	(63,027,990)
正味財産合計	3,850,022,358	3,770,531,305	79,491,053
負債及び正味財産合計	4,279,906,428	4,295,761,344	△ 15,854,916

2 正味財産増減計算書（総括表）

令和6年4月1日 から 令和7年3月31日 まで

（単位：円）

	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	6,242,549	5,159,134	1,083,415
展示場設備受贈益	23,240,130	23,240,130	0
特定資産運用益	2,322,565	2,199,000	123,565
受取会費	7,991,500	7,782,500	209,000
事業収益	936,264,680	964,052,589	△ 27,787,909
受取補助金等	299,910,995	296,359,647	3,551,348
受取負担金	73,132,731	77,419,073	△ 4,286,342
雑収益	13,835,054	17,458,679	△ 3,623,625
経常収益計	1,362,940,204	1,393,670,752	△ 30,730,548
(2) 経常費用			
事業費	1,222,283,842	1,212,104,101	10,179,741
管理費	14,156,076	11,707,692	2,448,384
経常費用計	1,236,439,918	1,223,811,793	12,628,125
当期経常増減額	126,500,286	169,858,959	△ 43,358,673
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	3	175,176	△ 175,173
当期経常外増減額	△ 3	△ 175,176	175,173
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	22,489,100	44,907,900	△ 22,418,800
法人税等調整額	1,280,000	△ 2,052,000	3,332,000
当期一般正味財産増減額	102,731,183	126,827,883	△ 24,096,700
一般正味財産期首残高	2,777,178,594	2,650,350,711	126,827,883
一般正味財産期末残高	2,879,909,777	2,777,178,594	102,731,183
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	4,398,300	3,883,708	514,592
一般正味財産への振替額	27,638,430	27,123,838	514,592
当期指定正味財産増減額	△ 23,240,130	△ 23,240,130	0
指定正味財産期首残高	993,352,711	1,016,592,841	△ 23,240,130
指定正味財産期末残高	970,112,581	993,352,711	△ 23,240,130
III 正味財産期末残高	3,850,022,358	3,770,531,305	79,491,053

IV 令和7年度事業計画

1 総論

【協会の活動】

当協会は、「小倉駅新幹線口コンベンションゾーン」のMICE施設の一体的・有機的な管理運営を行うとともに、MICEと観光の両事業の連携による効果的な情報発信機能を有しており、大きな強みとなっている。

この強みを生かし、当協会のミッションである「国内外からの観光客の誘致・滞在化を促進する観光事業の推進」、「日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン」の一体的運営とグローバル志向のMICEの誘致・支援」に取り組み、「都市ブランド力の向上、新たな魅力創造及びシビックプライドの醸成に貢献し、国内外から選ばれるまちを目指す」ことをビジョンとして掲げる。

当協会ではこのミッションを果たすため、次の活動方針に基づき、各種事業を展開していく。

(1) 主催展示会事業の強化

地域産業の発展や課題解決に必要な技術情報の提供と、展示会・商談会の相乗効果による販路拡大支援の強化、国・県・市の施策とリンクによる関係機関との協働による情報発信の充実、「半導体」「GX」「高度人材」等の成長分野を重点テーマとした新規企画の実施。

(2) MICE誘致の強化

学会のキーパーソンへのフェイス・トゥ・フェイス・マーケティングの強化、国内外での商談会等での新規会議案件の獲得、誘致開催助成金の活用、広域ネットワークによる連携などによるMICE誘致、営業支援策の強化。

(3) 貸館利用者の誘致・営業の強化

ターゲットを絞ったりピーターの利用再開や、長期休暇期間を狙ったエンターテインメントイベントの新規利用者開拓など

(4) お客様満足度の向上

規模や内容に応じた最適な会場やレイアウトプランの提案、イベント会場でのおみやげ物販コーナー設置や観光情報の提供。

(5) 観光客の誘致及び滞在化促進

北九州市及び観光関連企業と連携した観光客にとって有意義なコンテンツのPR、本市での宿泊や立ち寄り旅行者の誘客を促進させるための旅行商品等企画への助成。

(6) 観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

北九州市の四季折々の観光情報やイベント、コンベンション情報を掲載した機関誌の作成、北九州市観光情報サイトやSNSを活用した観光情報の発信。

(7) 観光に関する人材の育成及び啓発

観光案内ボランティアの派遣制度を運営し観光に関する専門人材を育成、観光知識の習得を目的とした市民、大学生対象の「北九州観光市民大学」を開講。

(8) 観光に関する施設の管理・運営

観光案内所、北九州おみやげ館、小倉駅JAM広場等の観光施設を運営し、北九州産業観光センターを通じ、世界遺産や工場夜景を核とした産業観光及び夜型観光を推進。

(9) 特産品の紹介・宣伝

特産品の紹介パンフレットの作成、ECサイトの運営。

(10) 旅行業法に基づく旅行業の実施

北九州市及びその近隣地域を訪れる観光客等への募集型旅行商品の企画・販売。

【指定管理計画の目標実現に向けて】

令和 6 年度に公募された西日本総合展示場新館および北九州国際会議場の指定管理を獲得し、令和 7 年度は、新たな指定管理期間の 1 年目（開始年）となる。指定管理施設の活用と、周辺施設や関係団体との連携を強化し、指定管理計画に掲げる目標（来場者数 96 万人（西日本総合展示場新館（北九州国際展示場）、西日本総合展示場本館、北九州国際会議場）、コンベンション誘致件数 250 件など）の達成に向け最大限努力する。

2 各論

主催展示会事業の強化

(1) 主催事業の展開

主催事業のうち、「課題解決 EXPO」は「ものづくり・DX・環境・エネルギー・中小企業」を主なテーマに、地域企業の課題解決にむけた情報発信を継続して実施する。今回新たに「半導体」「スタートアップ」分野に取り組み成長産業への新規参入や創業支援の一助とする。

また、「西日本陶磁器フェスタ」においては、全国の窯元を紹介するとともに、陶磁器を中心とした伝統工芸品の普及拡大や、食の企画の充実などにより新たな来場者誘致に取り組む。

あわせて、展示会運営のDX化を推進し、各種届出のWEB申請や来場者情報登録やその取得サービスの改善などに取組み、業務の効率化に努める。

《令和 7 年度開催の事業》

事業名		開催期日	入場目標	出展目標
課題解決 EXPO 2025	西日本製造技術イノベーション2025	7月2日～4日	20,000人	70社・団体
	西日本DX推進フェア2025			100社・団体
	ふくおか未来ものづくり技術振興展 (中小企業テクノフェアin九州2025内)			40社・団体
	エコテクノ2025			115社・団体
	ベンチャー・メッセ2025			30社・団体
	中小企業テクノフェアin九州 2025			75社・団体
第 47 回西日本陶磁器フェスタ		9 月 19 日～24 日	50,000人	230社
合 計		7事業	70,000人	660社・団体

(2) 国際ビジネスの推進

展示会の国際化とMICE推進を目的にMOUを締結している釜山広域市のBEXCO（国際MICE施設）と連携し、相互出展による国際的な取引促進とお互いの主催事業の国際化の推進に取り組む。また、韓国仁川広域市「松島Convensia」との交流を開始する。

(3) 新規展示会の Fair in fair 型(小規模展示会)での開催

「半導体」や「スタートアップ」の分野について、これまでセミナーやプレゼンテーションの実施により調査・検討を続けてきた結果、既存事業の一部または全部をリニューアルすることで小規模展示会として実施する。また、「物流」や「航空宇宙」の分野については、引き続き新規事業のテーマとして実施の可能性について検討する。検討にあたっては国・県・市や関係機関と連携し見本市・展示会開催の可能性を探る。

MICE誘致の強化

(1) グローバルレベルでのフェイス・トゥ・フェイス・マーケティング

誘致営業の効果を最大化するため、市内、県外及び海外のキーパーソンや学会協会、PCO等に対するフェイス・トゥ・フェイス営業を行う。

また、「北九州市MICE倶楽部首都圏交流会」を開催し、首都圏のキーパーソンや学会協会関係者とのネットワーク継続とその拡大を図る。その他、ICCA（国際会議協会）との連携を継続し、ICCA会議や学会協会本部の開催地公募状況など、グローバルレベルでの情報収集を行うとともに、JNTO（日本政府観光局）や海外見本市・商談会で築いたネットワークを活かしながら、有力海外キーパーソンとの連携、海外大学や有力PCOへの訪問営業を積極的に進め、誘致件数の獲得拡大を図る。

(2) 北九州市MICE開催助成金の戦略的な活用

昨今、MICEを推進する都市の支援内容も充実する中、北九州市MICE開催助成金は、重要な誘因となっており、競合する国内外都市との誘致競争を勝ち抜くためには必要不可欠である。今後とも主催者からの聞き取りやアンケートなどから主催者ニーズの把握に努め、行政と連携し、助成金制度を効果的に運用することで、より多くの会議誘致に繋げる。

(3) ステークホルダーとの連携

協定を締結する市内4大学（九工大、九歯大、北九大、産医大）と連携し、ローカルホストによる会議開催件数の増加を図るとともに、「北九州市グローバルMICE推進協議会」（ホテル、旅行・交通会社、行政等で組織）を通じた「チーム北九州」として、国際MICEエキスポへの出展などの誘致セールス、開催支援活動等に取り組む。

(4) 情報発信の強化・PRツールの作成

SNSを通じ、日本語・英語で誘致に関する情報を発信する。また、北九州市のSDGs施策をPRするため、ノベルティを製作・配布し誘致の足掛かりとする。

(5) MICE開催支援制度

会議・大会主催者から高い評価を得ているJR小倉駅北口の歓迎看板設置や地元製品の提供、エクスカーションの際のバスの手配などの側面支援を継続して実施する。また、北九州市の近代産業遺産、産業観光、優れた観光素材等の魅力のアフターコンベンション・メニューとしての積極的な紹介や、北九州市内の施設を活用した新たなユニークメニューの開発に取り組むとともに、旅行業の取り組みをはじめた観光事業部のツアーも積極的に活用し、さらにMICE参加者の満足度を高め、波及効果の拡大を目指す。

貸館利用者の誘致・営業の強化

(1) エンターテインメント分野の誘致推進

令和 6 年度に発足した「北九州市コンサート誘致コンソーシアム」の取組みと協調し、全国規模で開催されるゲームコンテンツ、アーティスト及びアイドルや声優関連のコンサート等の趣味性の高いエンターテインメント分野のイベントを誘致することで、会場利用の促進と来場者の増加を図ることにより、市の経済波及効果を高め「稼げるまち」の実現に貢献する。

(2) 新規利用者の開拓

従来型の見本市・B to B イベントに加え、B to C イベントの誘致について、自動車、文具・事務機、建材、食品、衣料・服飾、企業レクリエーションなどの業種・分野をターゲットとした誘致に注力し、今後の継続開催に繋がる営業フォローを行う。

(3) 長期休暇中の稼働率向上へ向けた取り組み

お盆・年末年始等の長期休暇中は、高い集客力を有するファミリー向けイベント、ゲーム関連イベントやコンサートなどのエンターテインメントをターゲットとし、メディアやコンテンツホルダーなどを対象に積極的に誘致することで稼働率の向上と来場者数の拡大を図る。

(4) リピーターの利用再開と既存利用者の再構築

施設利用実績はほぼコロナ禍前の水準に達しているが、開催を完全に中止している過去利用者もあり、引き続き積極的に日程提案を行い、利用再開につなげる。また、年間複数回利用や同業他社が特定期間に集中開催する自動車、就職・転職、資格試験・入試等の業界については、会場利用日程の年間提案や重複・連続を避けた日程調整による営業を実施し、安定的かつ効率的な会場稼働を目指す。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

協会ホームページにおいて、施設の紹介、協会主催事業、コンベンション誘致、本市観光等の最新情報を提供するとともに、J R 小倉駅 J A M ビジョンや、ペDESTロリアンデッキ設置のデジタルサイン等積極的に活用し、施設や催事に関する情報を発信することで、視覚的に訴求力の高い広告効果を創出し、顧客の認知度を高める。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口地区振興連絡会と連携し、近隣の関係団体参加型の清掃活動やイベント等の実施により、にぎわい創出などに取り組む。

また、J R 九州・J R 西日本と連携し、主要催事のポスター・チラシを主要駅等に掲出し、広域からの集客向上を図る。

施設の管理・運営

(1) 主催者本位の施設環境の確保

主催者が希望する規模や内容に応じて、最適な会場やレイアウトプランを提案し、安全を確保した施設環境を提供する。また、主催者に的確な情報を伝え、安全かつ衛生的なイベントの実施につなげる。

(2) Web予約申込システム、問い合わせシステムの導入検討等

施設の利便性向上及び業務効率化のため、施設利用申請から請求書発行までをオンラインで完結できるように、Webサイトと基幹システムの機能連携改修について調整・検討を行う。

また、来場者対象のアンケートについて、従来の紙による回答方法に加えて二次元バーコードを活用したWeb回答を可能にし、より幅広い意見を収集し設備改善に繋げていく。

(3) 災害による被害の甚大化に対応する防災体制の構築

常時、施設維持管理に細心の注意を払い、不測の事態が発生した際には、職員が速やかに利用者の安全を確保できるよう、適切な防災体制を構築する。

(4) 施設・設備の改修等

西日本総合展示場本館耐震工事に合わせた大規模改修工事の検討、実施計画の策定とともに、AIM3階展示場の空調改修工事を進め、北九州国際会議場において計画しているメインホール吊り天井の耐震改修工事や、照明のLED化工事等の大規模改修工事について、実施に向けて引き続き市に要望していく。

観光事業

(1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業

ア 他都市及び旅行者等へのPR活動

北九州空港海外路線の運航に併せた本市の観光素材の情報発信・旅行社へのセールスを実施するとともに、福岡空港及び関西空港からのインバウンド観光客に対しても本市への誘客を促進する。また、メディア関係者や旅行社、プロガー（インフルエンサー）向けのFAMツアー等を活用した市内最新情報の全世界発信を行ない、インバウンド観光客向け着地型旅行商品の造成、多言語情報対応のインバウンド専用サイトの構築、本市への誘客や夜型観光資源などを活用した国内向け観光キャンペーンなどを進める。

イ 団体旅行（教育旅行等）誘致事業

市及び民間事業者と連携し、教育旅行等団体旅行受け入れに対応したメニューづくりを各施設に促すことで、本市への観光客誘致促進を図る。

ウ 助成事業

北九州市の伝統的な祭事に対し補助を行い、集客力のある祭事の開催継続による観光客の誘客を図る。

(2) 観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

機関誌「北九州観光イベントだより」の発行、北九州市観光情報サイトを活用した本市魅力の発信などのWebサイトの運用、北九州市の観光資源を紹介したカレンダーや絵葉書のビジュアルツールを発行する。

(3) 観光に関する人材の育成及び啓発

新たな旅行需要に合わせた先進的な取り組みを行っている事業者のおもてなし活動などをSNSで紹介する。また、観光ボランティア制度（R6.4月現在114名）を運営するとともに、新たな観光ボランティアの担い手の養成や若年層の観光知識習得を目的に北九州観光市民大学を開講し、市民の観光マインドを醸成する。

(4) 観光に関する施設の管理・運営

ア 観光案内所等の運営

「北九州市観光案内所運営協議会」を通じ、市内 4 カ所において観光案内所を運営し、国内外からの観光客に対しニーズに合わせた観光情報を提供する。また、更なるインバウンド需要を見据え、訪日外国人が求める観光情報の準備や SNS による情報発信等を行う。

イ 産業観光と夜型観光の推進

北九州市、北九州商工会議所と当協会で組織した「北九州産業観光センター」を通じ、世界遺産や工場夜景を核とした「ものづくり観光」のブランド化に取り組み、産業観光と夜型観光を推進する。

ウ 土産品・特産品売店や小倉駅イベント広場等の運営

「北九州おみやげ館」「TOTOMI ユージウム」での土産品・特産品売店の運営や、小倉駅イベント広場での市・JR 主催事業の実施、JAM ビジョンの運用等により、まちのにぎわいを創出する。

(5) 特産品の紹介・宣伝

北九州市の特産品を紹介するパンフレットを作成し市内各所に配置する。また、ホームページで特産品を紹介し、通販サイト等で購入できるシステムを管理運営、SNS を利用した情報発信を行なうとともに、市内外で開催されるイベントや観光物産展へ参加し、北九州市の特産品・土産品を実際に手に取り、購入できる機会を数多く提供する。

(6) 北九州市及びその近隣地域における旅行業

ア 北九州市及びその近隣地域を訪れる観光客や、当協会が誘致したコンベンション等の参加者に対し、さらなる滞在時間の延長や、地元経済の消費拡大を図るため、着地型パッケージツアーを中心とした募集型企画旅行商品の企画・販売を行う。

イ 令和 6 年度造成ツアー（企救焼窯元体験ツアー、角打ち・スナックツアー他）の安定的な販売を確立させ、合わせて新たなツアーの販売を開始し、事業としての収益化を図る。

ウ 当該事業の認知度を向上させるため、直接的な営業や英語版のパンフレットの作成、SNS や広告媒体を活用し積極的に情報発信と誘客を行う。

エ 誘致部等の学会誘致と連動したアフターコンベンション等としての利用を促進する。

オ 旅客運送事業者や旅行事業者、宿泊事業者等と連携し、商品販売の強化を行う。

カ 本市近隣地域と連携した商品開発を行う。

V 令和7年度予算 収支予算書(総括表)

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公営的事業 会計	収益事業 会計	法人会計	内部取引排除	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	439,000	469,000	5,773,000	0	6,681,000
展示場収受増益	17,662,000	5,578,000	0	0	23,240,000
特定資産運用益	2,223,000	109,000	0	0	2,332,000
受取会費	9,345,000	0	0	0	9,345,000
事業収益	396,459,000	595,291,000	0	0	991,750,000
受取補助金等	279,438,000	0	303,000	0	279,741,000
受取負担金	42,227,000	35,068,000	0	0	77,295,000
協賛金	500,000	0	0	0	500,000
雑収益	8,426,000	6,131,000	0	0	14,557,000
経常収益計	758,719,000	642,526,000	6,076,000	0	1,406,321,000
(2) 経常費用					
事業費	840,686,000	516,239,000	0	0	1,356,925,000
管理費	0	0	17,460,000	0	17,460,000
経常費用計	840,686,000	516,239,000	17,460,000	0	1,374,385,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 83,967,000	126,287,000	▲ 11,384,000	0	30,936,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 83,967,000	126,287,000	▲ 11,384,000	0	30,936,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	59,822,000	▲ 66,465,000	6,643,000		0
法人間、住民間及び事業間	0	20,936,000	0	0	20,936,000
当期一般正味財産増減額	▲ 24,145,000	38,886,000	▲ 4,741,000	0	10,000,000
一般正味財産期首残高	1,822,967,558	572,594,982	▲ 61,146,623	0	2,334,415,917
一般正味財産期末残高	1,798,822,558	611,480,982	▲ 65,887,623	0	2,344,415,917
II 特定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	5,773,000	0	5,773,000
一般正味財産への振替額	17,662,000	5,578,000	5,773,000	0	29,013,000
当期特定正味財産増減額	▲ 17,662,000	▲ 5,578,000	0	0	▲ 23,240,000
指定正味財産期首残高	135,866,359	12,902,485	761,421,282	0	940,190,126
指定正味財産調整額	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	118,204,359	37,324,485	761,421,282	0	916,950,126
III 正味財産期末残高	1,917,026,917	648,805,467	695,533,659	0	3,261,366,043

Ⅵ 役員名簿等

1 役員名簿

令和7年7月1日現在

役 職 名	氏 名	備 考
理 事 長	津 田 純 嗣	北九州商工会議所 会頭
専 務 理 事	小 石 富 美 恵	(公財)北九州観光コンベンション協会
理 事	森 川 洋 一	北九州市都市ブランド創造局にぎわい担当理事
//	田 中 亮 一 郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
//	安 部 高 子	北九州商工会議所女性会 会長
//	今 崎 正 明	(一財)九州オープンイノベーションセンター 専務理事
//	廣 瀬 香	(一社)九州経済連合会 総務国際部長
//	関 宣 昭	NPO法人里山を考える会 代表理事
//	棟 安 正 人	(株)リーガロイヤルホテル小倉 代表取締役社長(兼)総支配人
監 事	中 村 彰 雄	北九州市会計室長
//	羽 田 野 隆 士	北九州商工会議所 専務理事

2 市との特命随意契約の状況（令和 6 年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち政策連携団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託 金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託 金額 (千円)	契約相手	契約 方法	特命随意 契約の場合 その理由
令和 6 年度中 国・韓国・英語 圏向け SNS 情 報発信業務	1,650	当該協会のアカウントは既に一定数のフォロワーがあり、SNS を活用した海外向け情報発信ツールとして適しているため。	再委託なし				
「門司港ガイドおまかせコース」運営業務	80	門司港エリア全体の文化や歴史及び最新の観光情報に精通し、観光客の多岐にわたる要望にきめ細やかなスキルで対応できるガイドを安定的に派遣することが必要な業務である。これらの条件に対応可能な事業者は、ボランティアガイドを100名以上有しかつ年間約2万人の観光客を案内する北九州観光コンベンション協会のみであるため。	再委託なし				
柳井綾音選手のパブリックビューイング開催に係るJAM ビジョンの設営準備業務	253	小倉駅 JAM ビジョンの所有者であり、管理者であるため。	再委託なし				
パリ 2024 オリンピック・パラリンピック北九州市ゆかりの選手応援動画放送業務	220	小倉駅 JAM ビジョンの所有者であり、管理者であるため。	再委託なし				
小倉駅 JAM ビジョン放映業務(WTT ファイナルズ福岡 30 秒スポット CM 放映)	340	小倉駅 JAM ビジョンの所有者であり、管理者であるため。	再委託なし				
ジャパンラグビーリーグワン(トヨタヴェルブリッツ対埼玉パナソニックワイルドナイツ)開催に係る小倉駅 JAM ビジョン PR 動画放映業務	220	小倉駅 JAM ビジョンの所有者であり、管理者であるため。	再委託なし				
合 計	2,763		合 計				